

## 展覧会情報

### 秋田の国と城

会場 千秋文庫  
 電話03-3261-0075  
 期間 9月1日～12月10日

### 企画展「被災地とともに～東日本大震災報道写真展」

会場 ゼンリン地図の資料館  
 電話093-592-9082  
 期間 10月12日～12月29日

### 市制100周年記念 全国山城サミット連携企画「城絵図」

会場 浜松市博物館  
 電話053-456-2208  
 期間 11月19日～1月9日

### 企画展「ウメサオタダオ展 -未来を探検する知の道具-」

会場 日本科学未来館  
 電話 03-3570-9151  
 期間 12月21日～2月20日

### ザ・タワー -都市と塔のものがたり- (予定)

会場 江戸東京博物館  
 電話03-3626-9974  
 期間 12年2月21日～5月6日

## 巡検開催のご案内

### ■ 平成23年冬の巡検「蕨巡検」を開催します！

12月10日(土)「蕨巡検」

集合:10:00 JR埼京線「北戸田駅」改札  
 ルート:北東方向へ進み、春日公園・宝蔵寺→中山道  
 →中山道本町通り→歴史民俗資料館・分館→城址公園、  
 和楽備神社を見学→JR京浜東北線「蕨駅」午後3時30  
 分頃解散予定(天候等でルート変更あり)。  
 参加費:1,000円(予定)

参加希望の方は12月7日(水)までに03-3262-1486か  
 E-mail: [chizujoho@coral.bforth.com](mailto:chizujoho@coral.bforth.com)までご連絡下さい。  
 (埼京線北行)

| 駅名  | 新宿発   | 新木場発  | 新宿発   |
|-----|-------|-------|-------|
| 渋谷  |       | 09:23 |       |
| 池袋  | 09:20 | 09:34 | 09:41 |
| 赤羽  | 09:28 | 09:42 | 09:50 |
| 北戸田 | 09:39 | 09:53 | 10:01 |

(埼京線南行)

| 駅名   | 大宮発   | 大宮発   | 大宮発   |
|------|-------|-------|-------|
| 大宮   | 09:21 | 09:28 | 09:40 |
| 武蔵浦和 | 09:32 | 09:42 | 09:52 |
| 北戸田  | 09:34 | 09:45 | 09:54 |

## mini地図NEWS

東日本大震災の津波のため、国内で2番目に低い山とされる仙台市宮城野区ひよりやまの日和山(標高6.05m)が消滅していたことがわかった。

山はシギやチドリなどの野鳥が羽を休める「蒲生干潟」や仙台湾を望む市民の憩いの場だっただけに、惜しむ声が上がっている。

仙台市などによると、日和山は国土地理院発行の地図で記されている山の中で、大阪市てんぼうざんの天保山(同4.53m)に次いで2番目の低さ。歩いてもあつという間に1周できる。1909年頃、地元住民が作ったという。

山頂にある「日本一低い山」と書かれていた案内看板には「元祖」の文字が書き加えられていた。

(2011年9月14日 読売新聞)



消滅前の日和山登山道(Wikipedia、上)と仙台市ホームページに掲載されている「蒲生・日和山・高砂神社周辺」の地図(部分)。



# 地図絡み

## 第47回 地形図と天気図とでは

帝京大学理事 井口悦男

地形図には等高線、天気図には等圧線が、それぞれ描入されていること、一般的常識である。そして、毎日朝晩繰返し天気情報に等圧線が登場していること、等高線が記入された地形図が目に触れる機会以上の頻度である。—

しかし、考えてみると天気図におさまりの等圧線の渦や曲面模様は、じつは等高線の重なり以上に、われわれは具体的に、この身で触れることができないものである。等高線のほうはそれでも、実際には存在しないが、線の重なりとなる斜面は、等高線の背後に確かに存在している。これに対し、等圧線は空気ばかりの、機械上だけに出現する数値で、場所別数値の同じ点を予想して描いた架空線である。とは言え、この架空線を結ぶことで、天気の変化、晴、曇、雨に止らず、その風向き、その強弱、さらには時間的移動まで予想可能となる。この図が、色刷りで、場合によっては具体的天候範囲を表示してあったりして、新聞、TVを中心に日常生活に密着した、ひとつの形の地図になりきっている。

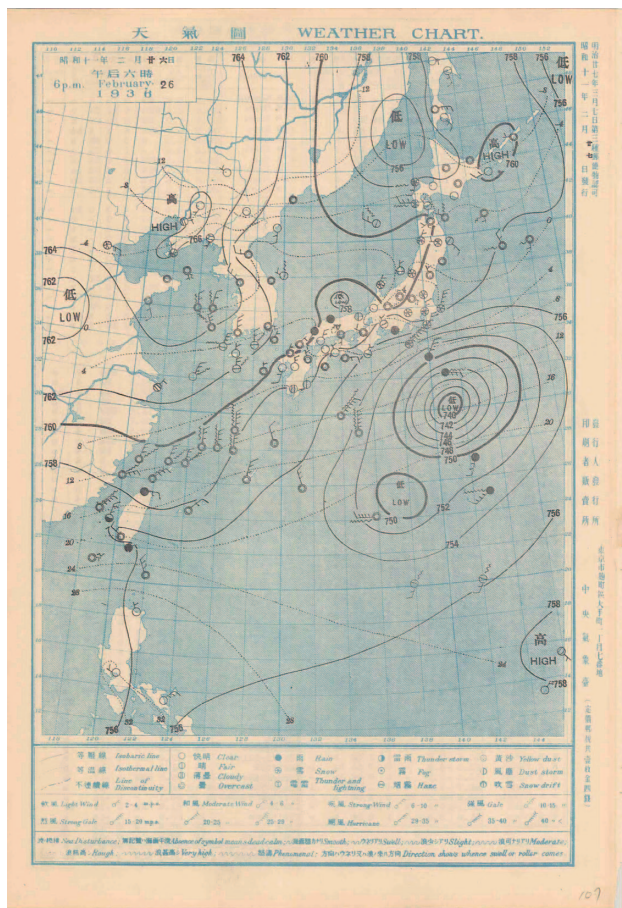
天気図より、この目で具体的に、その場所場所での地形的状况を確かめられる、等高線で表現された地形図のほうは、野外の野や山を楽しむ人たちが、仕事や旅行など必要とするばあいを別として、親しまれかたが、一步どころか何十歩も後方に置かれている。中学校の社会科でその読み方など学習するにも拘らず、天気図の足元にも及ばない、敬遠され気味の図である。

それにしても、地形を細かく表現できる地形図の描線から見ると至って大まかなながら、ここに例示した昭和11(1936)年2月27日発表の気圧配置図(2.26事件当日夕方方の気象)は、関東に春雪を降らせた、太平洋側八丈島通過中の2つ玉低気圧に、北海道の東から南千島へ移動中の高圧部から冷く湿った北西風の吹きこみによるとわ

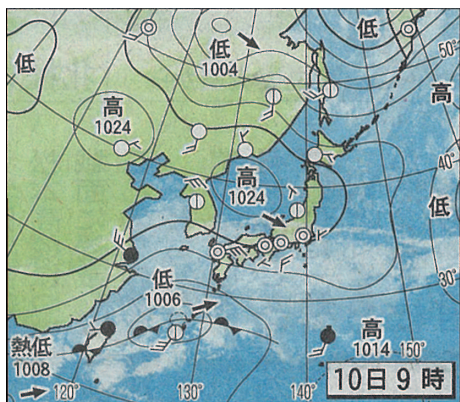
かる。春先の雪で都市機能が突然マヒすることもある。

太平洋側の低圧渦輪は、等高線のそれとは逆の表示であって、高圧部がこうなることはない。穏やかな山の姿を示す大きな輪でしかない。最近の日付けのどの天気図も、好天続きを表わす等圧線の輪や曲線は、いずれもゆったりした丘の形に等しい。

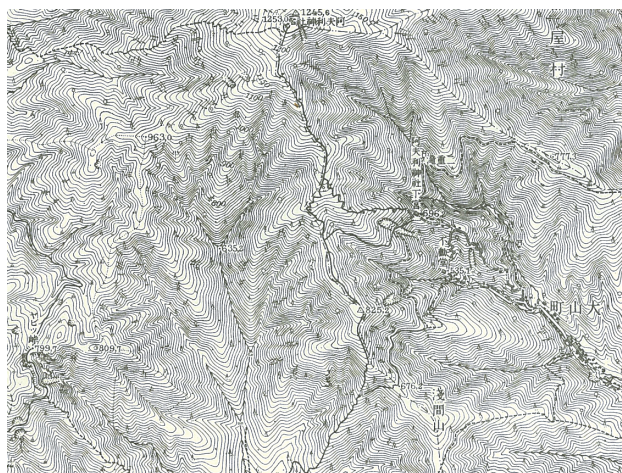
精密な等高線描より大まかな間隔でしかない天気図の等圧線描のほうが、理解されやすいとは、少々残念でならない。相模野の白い所が丹沢に入り急に黒っぽく等高線の重なる地形差を近くに眺めながら。 (11.11.11)



2.26事件当日夕方方の天気図(昭和11年2月27日発行)。「地図情報」Vol.31 No.3表紙の12時間後、裏表紙の気象観測表に対応。



新聞の天気図(朝日新聞夕刊)、平成23年11月10日



2万5千分1地形図「大山」昭和8年3月30日発行の部分。